

特攻隊 空に散る

第二十六回生(昭和十九年卒)立野 成子

さる三月二十九日の同期会のおり、戸山同

窓会の原稿を頼まりましたが、「エコと昔の思いで」ということで、なにか学校の宿題のようで気が重かった。私たちの同年代の世代は、空襲で家を焼け出され、戦中戦後の物の無い時代を一から家族共々這い上がった人々であるから、「エコ」は若い世代と違つて今も常識的な考えとなつていふと思ひます。私は「エコ」より『思いで』の方を書きたかった。私は十年前に『人生はあじさい色』という家族史を自費出版しました。その中からの抜粋で読んで頂きたい章があるのです。(皆さんも自分史をお書きに成りませんか)
それは昭和十八年から終戦の二十年の頃の話です。

☆大久保通りに面した我が家は小さい町工場だった。通いの他に住み込みの工具さんがいて家族同然狭い家にひしめいて暮らしていた。その中の一人の青年が特攻隊を志願して行った。

私の大好きだった栄ちゃん。忘れられない出戸栄吉さん。丸顔のいつも笑っているようなその目、口元。生家は石川県金沢市で兼六公園のそばと聞いていた。冬の寒い日など、こたつでゲームをして遊んでくれた。終戦の前の

年、軍国熱は高まり、

若い血潮の予科練の

七つボタンは桜に錨

今日も飛ぶ飛ぶ霞ヶ浦にや

でっかい希望の夢が沸く

の歌がはやり始めた頃、栄ちゃんは東北線の古河の陸軍飛行隊に十九才で自ら志願して、我が家から入隊していった。数日前「行くの？」と私が聞いた時、遠くを見るような、それでいて強いまなざしで「うん」と短く答えただ中に、気負いを感じた。故郷から栄ちゃんの両親を呼んで、見送りの会を開いた。

姉も、私もよく手紙を出した。必ず返事をくれるので嬉しかった。飛行服に身を固めた栄ちゃんの姿を想像して、絵を描いて送ったりした。すると、飛行場で撮つた写真を二、三枚おくつてくれた。休暇のあるごとに、金沢に帰省しなくても、我が家には必ず帰ってきた。航空隊の面白い話などして、私たち家族と食事をしたりする。満州のハルビンへ行って、満州皇帝に謁見して署名までして貰つて来たそう。いよいよ戦争も激化して「戦地に行くかも知れない」と言つた。いつも玄関まで見送ると、軍靴を履いて、飛行帽をかぶり大きな鷲の記章の付いた外套を着て「行って来ます」と拳手の礼をして出ていった。そして三月六日、私は熱が出て肋膜炎をおこし寝込んでいた。玄関の戸を叩く音に目を覚ます。栄ちゃんが見えたらしい。居間から

母と話している栄ちゃんの明るい声がある。

そのうち栄ちゃんは私の枕元にやつて来て、

火鉢に当たりながらいろんな話をしてくれた。

笑いながら、身振りしながら……。私は空に

憧れた。「一度、飛行機に乗りたくない」と言

つたりした。「病氣になんか負けちゃいけないよ」そう言いながらゆつくり立ち上がると、

襦を開け、振り返りつつ出て行った。

「ええ、大丈夫よ」そう心の中で頷きつつ、

「さようなら」と言つた。いつも変わらぬその

態度。それなのに、これが最後の別れとは

降り積もつた雪を踏んで、その足音は遠のいて

いった……。

それからひと月も経たぬ二十年四月始め、

家中みんなでみんな新聞を抜けて騒いでいる。

「特攻隊として若き情熱に、自らの命を投げ

打つて「神風」となつて敵機と戦い、南の空

に散つた」と大きな見出し入りで報じられ、

そこに武克隊軍曹、出戸栄吉の名を見出した

のだった。

沖繩沖に、栄ちゃんは桜の花びらのように

散つた。今考えればあと五ヶ月も経たぬうちに

に戦争は終わつたのに。二十年八月十五日、

予期せざる終戦の日を迎えたのだ。人間

の運命の矛盾というべきか。何が栄ちゃんを

戦場に駆り立てたのか？時代のせいかな、若い

純粹な情熱か？終戦後、数十年余も経つて栄

ちゃんへの純真な気持ちも、長い歲月の中に

他の思い出と共に閉じ込めてしまひそう。栄

ちゃんごめんなさい。でも思い出すのが供養というからお許しを—古い手紙がこの間ふいと現れた。

☆成子ちゃん、手紙有り難う。僕の絵中々良く描けています。飛行場も大体絵と一緒にすよ。只、絵には単翼の飛行機しか描いてありませんが、僕の乗っている飛行機は二枚翼のよき赤トンボですよ。それともあれは未来の僕かな。一枚翼の高等練習機に乗れるようになれば卒業ですよ。これに乗れるとすぐ有名な隼、鍾馗又は呑龍に乗れます。十一月頃になれば鍾馗又は呑龍に乗って演習している事でしょう。

四月になれば僕も兵隊ですよ。兵隊になると、今度は那須の方にも飛ぶし、東京の家の空の上を飛んで行けるかも知れない。東京は中々規則がやかましいので飛ぶことが出来ない。が、飛べるかも知れません。一度戦地に行く前に成子ちゃんたちに、僕の飛んでいる姿を見せたいと思って居ります。成子ちゃんが那須に行く時、宇都宮を通るころ沢山飛行機が飛んでいたでしょう。僕も兵隊になると、其処の航空隊と一緒にになるので、これからは毎日那須あたりまでは飛んでいけます。今度那須へ行く事があつたら古河駅から宇都宮駅の間には赤トンボが飛んでいたら、その中に僕もいるかも知れませんよ。こんな時は直ぐ見える望遠鏡が欲しいですね。

お姉さんの手紙では、毎日一生懸命に受験

勉強しているそうですが、他の事は考えないで唯目的に向かつて突撃ですよ。勇ましくそして落ち着いて、自信を持ってやれば合格は確実です。僕が保証します。合格したらお祝いに飛行機を一台上げようか。しかし家がつぶれるから止めましょう。フレフレ成子ちゃん、試験という敵を撃墜セヨ。目的に向かつて前進セヨ。栄吉より。

☆小さい女学生さん、元気ですか。聞けば級長さんだそうですね。責任感を持って立派に級長さんとしての責任を果たして下さい。僕たちも毎日毎日、日曜日も祭日も演習と勉強ばかりです。靖国神社の大祭の日も、高い高い空から東京に向かつて遙拝しました。演習が終わると、今度は体全部が痛くなるような航空体操を行います。そして丈夫な体と立派な精神を養って居ります。成子ちゃんも益々元気で立派な成績を挙げ、お父さん、お母さんを喜ばすように励んでください。栄吉より

九州の知覧という所に戦時中特攻隊の出動する飛行場があつたそうで、栄ちゃんもそこから飛び立って行つたと思われる。その知覧という町に、特攻隊の記念資料館があり、制服制帽の古い写真が、飾られているテレビを見たことがある。その中に栄ちゃんの写真があるのだろうか？……。